

## 第 24 回さくらの会 質問回答

- 1) 手術後 5 年経って、突然、腕がむくみました。1 年経っても治りません。乳がんの手術後は、一生気を付けないといけないのですか？

【回答】腕がむくむ病気をリンパ浮腫と言います。乳がんの手術で、腋窩のリンパ節郭清を行うと、しばしば起きる合併症です。手術後、何年経っても起こります。当院では、リンパ浮腫が発生すると、専門の看護師が対応し、きちんとコントロールしています。しかし、一旦リンパ浮腫になると、治すことは困難ですので、予防を心掛けましょう。特に感染が引き金になることが多いので、ガーデニングの際には、手袋をしてください。なお最近では、センチネルリンパ節生検でリンパ節転移のないことを確認できましたら、郭清を省略するため、リンパ浮腫の頻度は大幅に減少しました。

- 2) 高齢になると、がんの進行が遅いと聞きますが、本当でしょうか？

【回答】若い方ががんの進行は、確かに早いですが、高齢の方ががんの進行が遅い訳ではありません。がんは人の都合と関係なく、どんどん進行します。

- 3) HER2 遺伝子が陽性です。この遺伝子は、乳がん以外の他の臓器のがんにも影響しますか？

【回答】近年、様々ながんの増殖因子がわかってきました。HER2 遺伝子は、乳がんだけでなく、胃がんの増殖因子になることがあります。

- 4) がん抑制遺伝子は誰でも持っているものですか？持っているのであれば、この遺伝子を活性化することはできますか？また DNA を修復する酵素は自分で増やすことができますか？

【回答】人は皆、多数のがん遺伝子やがん抑制遺伝子を持っており、また傷ついた DNA を修復する酵素も持っていることがわかってきました。しかし、現代の医学では、がん抑制遺伝子や DNA 修復酵素の活性化を促す方法はわかっていません。私たちにできることは、DNA を傷つけるような発がん物質などをできるだけ、避けることだけです。特に喫煙は、本人だけでなく、ご家族の発がん性も明らかに高めるため、禁煙されることが望ましいと考えます。

- 5) どういう乳がん患者が再発し易いか、教えてください。

【回答】乳がんでは、病期とがんのタイプ分類が、予後に大いに関係しています。病期が進むほど、再発の危険性がますますのは、周知のとおりです。定期的な健診を受け、早期発見に努めてください。一方、タイプ分類では、治療のターゲットを持たない、トリプルネガティブ乳がんの予

後の悪いことが知られています。

- 6) 血液検査で、ALP がとても高いのですが、骨転移の可能性はありますか？骨転移の症状は何ですか？これからどんな検査をしたら良いですか？

【回答】ALP は、骨以外に、血液や肝臓の影響を受けます。しかし、乳がんの術後で ALP が著明に高値の場合は、精査が必要です。先ず、骨転移の症状は、疼痛やしびれなどがあり、これらの症状がある場合は、骨折や神経麻痺の危険性があるため、緊急で検査を行うべきです。検査としては、骨転移のマーカー検査や骨シンチ、脊椎 MRI 検査あるいは PET 検査などが挙げられます。

- 7) 放射線治療を受けた場合、再発後に、もう一度治療を受けることは可能ですか？

【回答】放射線治療は、局所のコントロールに非常に優れた治療法ですが、同じ場所に繰り返し治療を行うと、神経麻痺などの組織の障害が強くなるため、特別の場合を除いて、通常は 2 度目の治療は不可能です。

- 8) 一度再発や転移が起きると、薬物治療を生涯続ける必要がありますか？薬代が高いので、何年も続くと大変です。前向きに生きていますが、どのような気持ちの持ち方をしたら、良いですか？

【回答】乳がんの遠隔再発では、通常、ほとんど根治は不可能です。従って、薬物治療でがんの進行をコントロールできている場合は、薬物治療を続けられることをお勧めいたします。医学の進歩に伴い、薬物治療は非常に有効になってまいりました。ただ高価な薬剤が多くなり、治療費が非常に高額になることが問題です。日本全体の大きな問題と考えます。

一方、乳がんの再発では、担がん状態で通常の日常生活を送ることが可能な場合が多いです。患者さん本人が、前向きな気持ちを持つことによって、ご本人だけでなく、ご家族の生活環境も一変して、良い方向に行くように感じています。誰かと毎日話をするだけで、気持ちがほぐれてきます。ご家族やさくらの会の仲間、あるいは私たち市立病院のスタッフと一緒にあって、辛いことも楽しいことも分かち合えると良いと思います。